



COC Monthly News Letter

COC: Center of Community (地(知)の拠点)

Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学の地域貢献活動を毎月1回お届けします。

2016年2月号

Vol. 21



グローバルな知の拠点となる大学
未来の実践的担い手を育てる大学
地域に開かれ地域と向き合う大学

Topics

最新のニュース・話題など大学での出来事をお伝えします。

◇第2期やまなし市民後見人養成講座

昨年11月28日より、全6回にわたる「やまなし市民後見人養成講座」が始まり、1月30日で終了しました。今年度も定員40名のところ、46名の方にお申しいただき、市民後見人の基礎知識を学んでいただけたと思います。以下、第1回から第6回の講座を受講しが学生コメントを掲載します。

【第1回】11月28日(土)に、今年度のやまなし市民後見人養成講座が開講しました。

昨年度に続き、本年度も42名とたくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。第一回は、司法書士の小林恵先生を講師にむかえ、成年後見制度の基本から始まり、市民後見人を取り巻く社会的な背景などを解説していただきました。講座の最後にはたくさんの質疑応答が交わされるなど、受講者の皆さんの積極的な姿勢に学生の私も刺激を受けました。このような講座を通じて、市民後見人制度の知識が山梨県に広がって欲しいと思います。(総合政策学科4年 富田 恵)

【第2回】12月5日(土)に、第2回目のやまなし市民後見人養成講座が行われました。

今回は弁護士の松本成輔先生にお越しいただき、後見制度と民法についてお話していただきました。様々な相続制度を中心にお話していただいたのですが、とてもわかりやすくてたびたび笑いも起こっていました。クイズ形式のような問題もあり、楽しく学ぶことが出来ました。

(国際政策学部総合政策学科2年 青柳美穂)

【第3回】12月12日(土)に第3回やまなし市民後見人養成講座が開催されました。

今回は、社会福祉士の宮沢秀一先生を講師にお迎えし、社会福祉協議会等の活動からみた市民後見についてお話していただきました。山梨における市民後見人制度について、市町村ごとに状況に違いがあることや、後見に関連して高齢者や障害者の虐待についてもお話がありました。受講生の皆さんはメモを取ったり質問をされたりと熱心に受講されていました。(国際政策学部総合政策学科2年 勝山晶絵)

【第4回】12月19日(土)に第4回やまなし市民後見人養成講座が開催されました。

今回は、社会福祉士の河西俊文先生を講師に迎え、「障害者への理解と市民後見活動」をテーマに、障害者の方の権利擁護の話題を中心として市民後見人の担う役割などについて話ししていただきました。先生のお話を通じて、成年後見制度の現状や今後について様々な意見が飛び交う講座となり、受講者の皆様の市民後見人の活用に対する関心の高さや熱意を感じる事ができました。

(国際政策学部総合政策学科4年 富田 恵)

【第5回】1月23日(土)に第5回やまなし市民後見人養成講座が開催されました。

今回は、本大学看護学部の依田純子先生を講師に迎え、「高齢者の理解と対応方法」をテーマに、高齢者の健康についてのお話から、後見に係る認知症とその対応についてのご説明をしていただきました。受講されたみなさんは先生のお話にうなずきながら熱心に聞いており、この講義の関心の高さを感じました。(国際政策学部総合政策学科2年 松田聖雪)

【第6回】1月30日(土)に第6回やまなし市民後見人養成講座が開催されました。今回は「地域に根差す

市民後見人の誕生に向けて」をテーマに、甲府家庭裁判所主任書記官の鈴掛匠先生、後見センターふえふきから萩原学先生、南アルプス市後見センターの古屋美智子先生を講師にお迎えしました。講義では市民後見人となるための手続きに関することや実際の仕事についての詳しい解説などをしていただきました。また今回が本講座最終回ということで、25名の参加者の皆様に修了書の授与を行いました。今年度も多くの方に受講していただき、ありがとうございました。(国際政策学部総合政策学科2年松田聖雪)

イベント情報

気になる話題の情報やためになる講習会や研修会をご紹介します。

◇2015年度 地域研究交流センター 研究報告会

山梨県立大学地域研究交流センターでは、大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援を行って参りました。今年度もその成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。どうぞお気軽にご参加ください。

◆開催日時 平成27年3月24日(火) 13:00~17:00 参加費は無料です。

◆開催場所 山梨県立大学飯田キャンパス サテライト教室(A館6階)

今月のプロジェクト 大学が自信を持っておすすめするプロジェクトのご案内。

<ミズベリングに関連した観光まちづくりプロジェクト>

この事業主体である「藤のみなづき」は、2015年4月に観光づくりの研究と実践を目的に、国際政策学部の学生9名で組織されました。地域戦略総合センターの佐藤文昭ディレクター・澤伸恭ディレクターの指導の下、同センターの保坂美香さんのご支援を受け、第1段階では、国土交通省のミズベリング事業と連動した「観光まちづくりプラン」を提案するため、約半年かけ富士川水系流域の富士川町・身延町などで調査研究と事業立案を行ないました。そしてこの企画：「塩でまちおこし～鰯沢で“えん” joining～」で、下記の全国的に有名な観光まちづくりコンテストに応募し（34大学：76チーム参加）、本選のポスターセッションで、40チーム中第1位となり「優秀賞」を獲得しました。

＊ポスターセッション優秀賞、『大学生観光まちづくりコンテスト 2015 山梨ステージ』（2015年9月12日）、主催：大学生観光まちづくりコンテスト運営協議会他。後援：観光庁・文部科学省他。

その後同事業企画は、社会的に高くも評価され、国土交通省のご招待で、同省の研究会でも報告を行いました（下記）。また本学地域研究交流センターの高大連携事業の一環で、身延高等学校でも講義を行い、同校生徒による身延町長への観光まちづくりでの政策提言にも協力助言しています。さらに現在は、同企画に賛同する、大学コンソーシアムやまなし・身延山大学・地元企業などと協力し、本年3月5日に提案の1つであるガイド付きツアーを実施する予定です。詳細は、近々に発表されますので、みなさんもしお時間が許せば是非おいでください。

＊『第1回富士川水系ミズベリング研究会』（2015年12月16日）、主催：富士川水系ミズベリング研究会、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務。



ミズベリング 授賞式後の記念撮影

担当教員紹介 個性派揃いの優秀な教員の意外な素顔を紹介します。

<国際政策学部国際コミュニケーション学科 教授 吉田均>

私の大きな悩みは、自分を語ろうとしても、すぐ話が「学生」や「家族」の話になってしまうことです。私のゼミの学生諸君の標語は、「みんなは1人のために、1人もみんなのために」（上の句）です。では、下の句は何か？ それは学生によってまちまちです。しかし基本は、「（先生も仲間に入れて）、あきらめず、もがいて、がんばって、汗をかいて、笑って、泣いて、楽しんで、夢をつかもう！」であればいいと思っています。

私のゼミでは、アクティブラーニングやCOC事業を通じて、教員と学生で、観光まちづくりを推進するため、観光資源の発掘、観光事業の企画、観光情報の発信をしています。また県内自治体の要請で、観光関係計画の立案に、委員やアドバイザーとして参加してきました。

例えば、2013年～2014年度は、22名の学生が、NHK朝の連続ドラマ「花子とアン」を活用し、産学官合同で組織された、「花子とアン推進委員会」の中核メンバーとして、情報発信と関連イベントの企画、商品開発を行いました。特に、学生が運営したfacebook「『花子とアン』推進委員会 with Friends」は、アクセス数全国第3位（43万アクセス/1年）を達成しました。

さらにこれらの活動が評価され、NHKなどのテレビや、読売新聞・朝日新聞・山梨日日新聞などのメディアで、計50件以上の報道があり、同ドラマや甲府市は勿論、本学に関する関心を全国レベルで大いに喚起しました。山梨県観光部の推計では、同活動を通じて1年間に県内で129億円の経済波及効果があったということですが、その中心スタッフとして全力で頑張り通しました。以上が、私の学生自慢であり、また私の人生の支えとなっています。

「個人の夢はただの夢ですが、みんなで夢を共有できれば、まちのかたちをかえられるかもしれない」。私の学生たちは、泣いたり、笑ったりしながら、それを行動で教えてくれます。



国際政策学部 吉田 均教授